

# すわみつえ通信

No.308 2024年3月25日

日本共産党鴻巣市議会議員  
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7  
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151  
携帯: 080-5039-2785  
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp  
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

## 鴻巣市議会3月定例会閉会する

3月定例会は2月21日に開会し、3月21日に閉会しました。新年度予算は賛成多数で可決しました。前年度比較で、2.1%増額の予算規模となります。

## 新年度予算決定

○一般会計歳入・歳出	405億6800万円
○特別会計（国保・介護など）	253億7400万円
○公営企業会計 （上下水道・農業集落排水など）	82億8441万円
【総額】	742億2641万円 （前年度比 15億5385万円増額）

### 【一般会計】

【A】就学援助制度にWi-Fiの通信費14,000円の補助、【B】不登校児童生徒の居場所としてのフリースクールなどに10,000円の補助、【C】正規職員10人増員、【D】会計年度任用職員で週15.5時間以上勤務の場合は期末・勤勉手当を支給、など市民の皆さんと要望してきたものが予算化されていることは評価できますが、

①企業版ふるさと納税、②包括施設管理業務のさらなる対象施設（放課後児童クラブ・上谷総合公

園、陸上競技場など）拡大、③マイナンバーカード交付事業の推進、④吹上富士見保育所と鎌塚保育所及び、児童発達支援センター・つつみ学園との統廃合を行い複合施設とする、⑤小中学校統廃合の推進。

行政のあらゆる分野で、委託化、民営化が進められています。少子化の名の下、保育所や学校統廃合を進めています。「住民の福祉の増進」のために力をつくす市政となることを求め、日本共産党議員団は反対討論を行いました。

### 【国保・後期高齢医療保険・介護保険特別会計】

国保税・後期高齢医療保険税・介護保険料すべて値上げの予算です。国の社会保障抑制方針によって、現役世代も年金世代も、苦しめられ続けてきています。国が財源措置を行い、市民への負担を増やすべきではないと、日本共産党議員団は反対討論を行いました。

### 「ガザ攻撃中止と即時停戦に向けた外交努力を求める意見書」可決!!

- 賛成13人（日本共産党・社民党・新未来こうのす・こうのす未来と維新・無所属の会）
- 反対10人（明誠会・公明党・かいえんたい）

議会最終日に提出した、提出者／竹田えつ子議員、賛成者／すわみつえ議員・西尾綾子議員による政府に対する意見書が可決しました。意見書へのすわみつえの賛成討論は2面に続きます。

### 我が家の庭にクリスマスローズとボケの花が春を告げに



#### 【俳句コーナー】

食堂にミモザ飾りて「国際女性デー」

瑠璃子

※3月8日の国際女性デーにちなんで

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

## すわみつえ 意見書賛成討論

日本政府が昨年12月12日の国連総会でガザの破局的事態を回避するため即時の人道的停戦を要求する決議に賛成をしたことは、停戦実現に向けた重要な一歩として評価するものです。

決議案に賛成は153カ国、全加盟国の8割という圧倒的多数の賛成で採択しました。反対は米国やイスラエルなど10カ国でした。

市議会に提出した意見書は、この決議をさらに実現への道筋にするためにも日本政府の外交努力を求めるものです。

日本共産党の赤嶺政賢衆議院議員は3月12日の衆院安全保障委員会で、避難民が集中するパレ

スチナ・ガザ地区最南部ラファへの攻撃中止と即時停戦をイスラエルに直接働きかけるよう上川陽子外相に求めました。

イスラエルの無差別攻撃による犠牲者が3万人を超え、大量虐殺と飢餓、感染症のまん延という重大な危機が進行しています。赤嶺議員は、上川外相が2月16日の会見で、人道的、持続可能な停戦の実現に言及する一方、イスラエルに直接働きかけていないとも発言しています。

国連総会の決議に賛成をした日本政府がさらに外交努力を行えるよう、非核平和都市宣言を行い「世界平和」を願う鴻巣市議会で意見書を提出すべきと、賛成の討論を行いました。

**「すわみつえ通信 No. 307で間違いがありましたのでお詫びして訂正いたします。」**

【介護保険料値上げ議案に反対】『世帯の合計所得400万円以上の方』と記載しましたが、正しくは、『合計所得400万円以上の方』でした。

「平和が一番 子どもたちに明るい未来を」「愛する子どもたちを戦場には決して送らない」一。平和への願いをつづった4083枚のはがきが、岸田文雄首相あてに提出されました▼全日本退職教職員連絡協議会（全退教）が、昨年9月から始めた「ポイスアクション」。はがきに思いを含め、現役教職員ともつながり合いながら、タペストリーを掲げて町で訴えてきました▼「教え子を再び戦場に送らない」。教職員はこの誓いを胸に、平和な社会を担えるよう子どもたちの背中を押してきました。あれから70年余、まさか再び大軍拡の道を突き進むとは。「何とかして今止めなければという気持ちに、ぴたりと重なったのだと思う」。全退教会長の長谷川英俊さんはこう話しました▼19日の午前から始まったのはがき提出行動には、全国から125人の退職教職員が参加しました。集会後は、JR四ツ谷駅前で約1時間スタンディング。夜には100回目を迎えた「19日行動」で国会前へ。「再び戦場に送る教え子は出すまい」との切なる願いを突き付けた1日となりました▼1枚のはがきに絵や文章で思いを託したアクション。年齢を重ね、街頭で行動することが難しくなった教職員も「これなら、家にいても首相に直接物申すことができる」と。「退職後のひとりぼっちをなくそう」と生まれた会は、教え子の幸せのために、手をつなぐ会へと発展しています▼アクションはまだ途上。子どもたちに平和な未来を手渡す日まで、声をあげ続けます。

しんぶん赤旗 3月23日付「きょうの潮流」から

## 輪島朝市、金沢で出張開催 3カ月ぶり大盛況、店主ら喜び一石川

能登半島地震で一帯が焼失した石川県輪島市の・「輪島朝市」が3月23日、金沢市で出張開催された。約3カ月ぶりに営業再開を果たした朝市は雨の中、長蛇の列ができるほどの大盛況。復興への第一歩を踏み出した店主らは「忙しいのは久しぶり」と喜びをかみしめた。



出張朝市は金石港近くの県漁業協同組合金沢支所と地元建設会社の敷地内で午前8時から開催。朝市組合に所属する約30店が、鮮魚や干物、輪島塗の漆器などを販売した。

輪島市中心部にある観光名所の朝市通りでは元日の地震に伴い大規模な火災が発生。住宅や商店など約240棟が焼損し、約4万9000平方メートルが焼失した。（時事通信社 3月23日付）